

# 日本心理療法統合学会

第4回学術大会



京都大学  
時計台記念館

2024年3月9日(土)



---

日本心理療法統合学会 第4回学術大会

# 心理療法統合におけるクライアントの力

プログラム・抄録集

## 会期

ハイブリッド：2024年3月9日（土）

オンデマンド配信（ワークショップ）：2024年3月2日（土）～3月31日（日）

---

## ごあいさつ

日本心理療法統合学会の第4回学術大会を、京都大学の時計台記念館において開催することになりました。

時計台記念館は、京都大学のシンボルとして親しまれている歴史ある建築物で、1925（大正14）年に建てられたものです。2003年に改修されましたが、外観や内装は当時のままに残されています。湯川秀樹や西田幾多郎など、日本の学術界が誇る大学者たちも出入りしていたであろうその格調高い空間は、本大会における学びに深みを与え、交流に気品を添えることでしょう。

今大会のテーマは「心理療法統合におけるクライアントの力」としました。心理療法はその専門家であるセラピストが、専門的な知識と技術を使って、クライアントに対して行うものと考えられがちです。しかし実際には、うまくいっている心理療法は、クライアントが能動的に関与して展開していくものです。数ある心理療法の中には、才気あるクライアントがその基礎を創ったと言えるようなものもあります。心理療法の成立に、創始者自身の苦悩の体験が重要な仕方で寄与している心理療法もあります。心理療法におけるクライアントの力は、実に大きいのです。

今大会では、このクライアントの力を取り上げ、心理療法の統合においてそれがどのように考えられてきたのか、そしてどのように扱っていくことが望ましいのかを検討する機会としたいと思います。

新型コロナウイルスの変異や流行は、いまだ予断を許しませんが、皆さんとお目にかかり、交流できることを楽しみにしております。会場にお越しになれない方も、オンラインで参加していただけます。本大会が多くの方のご参加を得て、活発な議論と交流の機会となりますよう、準備して参ります。

日本心理療法統合学会第4回大会  
大会長 杉原保史

日本心理療法統合学会第4回大会 ハイブリッド開催

タイムテーブル (2024年3月9日)

	プログラム				会場
9:30～ 10:00	開場・受付				国際交流ホール I・II 前
10:00～ 10:30	総会				国際交流ホール I・II
10:30～ 11:30	基調講演 「心理療法統合とクライアント要因」				国際交流ホール I・II
11:30～ 12:30	昼休憩				
12:30～ 14:00	会員企画 シンポジウム 2 国際交流ホール I・II	会員企画 シンポジウム 1 会議室 III	特別 ワークショップ 会議室 IV	研究発表 1・2 会議室 I	国際交流ホール I・II 会議室 I (18) 会議室 III (30) 会議室 IV (24)
休憩					
14:15～ 15:45	公開スーパーヴ イジョン 国際交流ホール I・II	研究発表 3・4 会議室 III	会員企画 シンポジウム 3 会議室 IV		
休憩					
16:00～ 18:00	大会企画シンポジウム 「治療的变化を創り出すクライアントの力」				国際交流ホール I・II
18:30～	懇親会				おむら家

「心理療法統合とクライアント要因」

第4回大会大会長 杉原保史

国際交流ホール I・II

オンライン配信：zoom1 基調講演、時間：10：30～11：30

---

心理療法の治療効果をもたらす要因には様々なものが想定される。大きくは以下のような要因が挙げられることが多い。

- (1) 治療技法要因
- (2) 治療関係要因
- (3) セラピスト要因
- (4) クライアント要因
- (5) 治療外要因

現実の心理療法において働いている治療要因は非常に複雑であり、それをどのように概念化するのが適切なのかは、とても難しい問題である。上の5つの要因は、非常に大まかな概念化である上に、実際には常に変動しながら相互に絡まり合っているため、明確に分離して抽出することは不可能である。

そうした限界を踏まえた上で、ここではクライアント要因に注目してみたい。一般に、クライアント要因とは、クライアントのセラピーへの動機づけ、内的リソース、変化への期待、性格特徴、精神医学的診断などを指している。

心理療法についての論考は、セラピスト側の視点からなされることが圧倒的に多い。心理療法は専門的・職業的な実践であり、それを施行する責任は専門家であるセラピスト側にあるのだから、当然と言えば当然である。しかしながら、心理療法において、クライアントが果たしている役割は非常に大きいことが知られている。これまでの研究では、クライアント要因は治療の成果を決定する上で、他のどの要因よりも重要な要因であることが見出されている。

本講演では、心理療法における様々な治療要因の働き、特にクライアント要因についての知見を紹介し、クライアント要因についての理解を深める。その理解を踏み台に、「心理療法におけるクライアントの力」をテーマにした午後の大会シンポジウムでは、クライアント要因を活かした心理療法統合について、皆さんと活発な議論ができることを期待している。

---

## 編集委員会・研修委員会合同企画 特別ワークショップ

(このセッションは、広く学会員に視聴していただきたい内容であることから、zoom 配信を録画いたします。後日、学会員に視聴していただけるようにご案内する予定です)

### 不適切な心理療法統合をしないための研究、論文投稿、 研修のススメ

講師 杉山崇（編集委員会委員長）・吉岡千波（編集委員会事務局長）  
東齊彰（研修委員会委員長）

会議室IV

オンライン配信：zoom4、時間：12：30～14：00

---

心理療法は占いでも呪いでも、マツコ・デラックスのような人気者による人生相談でもありません。周知の通り私たちが営む心理療法は、神経解剖学で博士号を取りつつもコカイン研究に伴う問題をきっかけに精神分析という思想体系を築いた S.Freud の活動以降、「科学的」な対人支援活動として社会的に認知されています。このことは私たちが他職種と区別するアイデンティティの一つです。私たちは科学的な姿勢を持つことが求められています。

「科学的」というと何だか難しそうに聞こえるでしょうか？実はそう難しいものではありません。たとえばケースと真剣に向き合い、支援仮説（見立て）に基づいて対応し、仮説通りの展開にならなかつたら仮説の修正（見立て直し）を行う…これだけでも十分「科学的」です。心理療法の実務家なら日々「科学的」に業務を行っていると言えるでしょう。

さて、当学会は人間観の違いで散らばってしまった心理療法の諸学派を統合的に活用することを目指した学会です。心理療法の「統合」の多くは私たち実務家と対象者の相互の主観の中でその最適解を見出すことが多いと思われます。

この営みの適切性の科学的な検証としては、スーパービジョンや事例研究、仮説立案に活用した理論（人間観）あるいは見立て直しの中で修正が必要と考えられた理論の実証研究、方法論の効果研究など様々な方法があります。ただ、いずれにしても同じ志を持つ心理療法家であり科学者である「仲間」と共に検討することが必要です。編集委員会が担当する本ワークショップ前半では、心理療法家として、科学的に統合を検討する姿勢とその方法の一つとしての論文投稿について会員のみならずご一緒に考えて参りましょう。

さて、わが国では始まったばかりの心理療法統合のための学修、訓練をどのように行っていけばよいのでしょうか。まだそのモデルがない日本の心理療法業界においては、当学会がその役割を担っていくことになるでしょう。一般的な心理療法の訓練としては、テキストや論文による座学、学会や研修会への参加、熟練者によるスーパービジョン、ベテランや同僚とのディスカッション、事例などの研究成果の発表・投稿などが考えられます。後半のセッションでは、それらの学修、訓練の方法について提言し、心理療法統合の研鑽のための心がまえなども述べたいと思います。併せて、来年度中に初めて開講する予定の、心理療法統合のための当学会研修委員会主催の研修会についてもご紹介したいと思います。よりよい心理療法統合を目指す皆様のご参加をお待ちしています。

---

---

## 会員企画シンポジウム1

### 心理職として生き残ること

～統合的アプローチを学ぶ若手の会の始まり～

企画・司会：佐藤大海（専修大学）

話題提供者：牧野啓太（相模原市青少年相談センター）

小林頌太（ハロークリニック相談支援室）

菅 瑠夏（おおりりカウンセリングルーム）

指定討論者：福島哲夫（大妻女子大学）

会議室Ⅲ

オンライン配信：zoom3、時間：12：30～14：00

---

「何か若手臨床家のためのグループをやしましょう」。そのような思いつきをきっかけに、私たちは2023年6月に「統合的アプローチを学ぶ若手の会」の活動をスタートした。

公認心理師法が施行されて6年が経ち、心理職を取り巻く環境は部分的には改善されたものの、心理職としての苦悩や困難が絶えることはない。心理職の成長・発達に関する研究を概観すると、理論的な学習や臨床実践、スーパービジョンの他にも、仲間関係の重要性が指摘されている。そのような背景から、統合的アプローチを学ぶ若手の会は、心理職として働くことや学ぶこと、成長していくことに関する苦悩を話し、お互いに助け合うような成長促進的な自助グループを目指して活動している。

本シンポジウムでは、3名の話題提供者から、若手心理職がどのようなことを考え、悩み、臨床実践を行っているかについて話題提供を行う。各話題提供者の発表は、それぞれが日々の臨床実践をしていく中で感じた、より“生の”語りである。特に、統合的アプローチに出会い、学び、実践していく心理職ならではの苦悩や工夫が含まれている。

まず牧野は、自らの経験から、初学者にとって統合的アプローチを学ぶことが果たす役割について話題提供をする。次に小林は、若手心理職が統合的アプローチを実践していくためには、どのような姿勢や態度が必要かということについて話題提供をする。最後に菅は、統合的アプローチの実践者の立場から、心理支援を行う心理職として、どのようなことが求められているかについて話題提供をする。

指定討論者の福島先生には、教育者として、心理職の先達としてのコメントをいただく。また、当日、ご参加いただいた先生方からも、ご自身の立場からコメントをいただきたい。

シンポジウムを通して、話題提供者が語り、先生方と対話をしていくことでそれぞれにとって新たな語りや創出されていくことを期待している。

---

## 会員企画シンポジウム2

### トラウマケアに関する心理療法の統合 ～多様性ある病態への理解とアプローチ～

企画者：浅井伸彦（一般社団法人国際心理支援協会）

司会者：浅井伸彦（一般社団法人国際心理支援協会）

話題提供者：三瓶真理子（EASE Mental Management）

若山和樹（名古屋掖済会病院）

浅井伸彦（一般社団法人国際心理支援協会）

指定討論者：岩壁茂（立命館大学）

国際交流ホールⅠ・Ⅱ オンライン配信：zoom1\_会員企画シンポジウム2、時間：12：30～14：00

---

昨今、トラウマケア、トラウマ治療について興味・関心が多く寄せられるようになってきた。自律神経系に関する新しい仮説理論であるポリヴェーガル理論（多重迷走神経理論）に関しては、多くの書籍や学会、研修会などでも取り上げられ、その勢いはトラウマ治療の界限にとどまらない。とはいえ、このような動きには十分注意する必要がある。「発達障害」「アタッチメント」「オープンダイアログ」などのワードと同じく、その領域に必ずしも精通しているとはいえないところにまで、真新しく使われるようになった診断名や、心理学的構成概念などの専門用語が流行のごとく用いられるようになり、あたかも何でもその枠組の中に押し込められるように誤用・乱用がなされることは想像に難くない。実際、トラウマ治療界限以外の領域でも、非常に多く「ポリヴェーガル理論」という言葉が用いられてきている。

さて、ポリヴェーガル理論に関するトラウマ治療に限らず、トラウマへの数々の理論やアプローチに関しては今や百花繚乱の時代にあるといえる。様々なアプローチが生まれ、その間で対立が生じたり、また複数技法の折衷・統合が試みられるなど、ポリヴェーガル理論やトラウマ治療そのものの“流行り”の裏側に、トラウマ治療に関する混沌・混乱が存在するように思われる。トラウマ治療のアプローチに関しては、複数技法の折衷や統合が試みられている一方で、各アプローチを勧める団体は当然ながら自らのアプローチを一番に勧め、厳格に定められた基準が、各アプローチのトレーナーには課せられている。このような各アプローチを守ることそのものは非常に重要であるが、このことが各アプローチ間の隔たりとなっているようにも見える。

以上のように、あまりに容易に専門用語やアプローチが用いられ、結果的に誤用・乱用を招いていることと、トラウマ治療の各アプローチは守るために保守的になることが分断を招いていることは、ある意味においてトラウマ治療領域の発展や、トラウマ治療以前のトラウマケア、トラウマインフォームドなケアを行おうとする支援者の学びを妨げているのではないだろうか。

本シンポジウムでは、トラウマケア・トラウマ治療という領域において、我々はどのようにトラウマについて学び、理解し、実践するべきかについて、各シンポジスト自身が学んできた多様な視点から検討したい。



---

## 会員企画シンポジウム3

### 広域通信制高等学校における大学進学を希望する特性のある生徒への オンライン環境を活用したキャリア支援の実践について

企画者：吉田敏明（明蓬館高等学校）

司会者：後藤のぞみ（明蓬館高等学校 品川・御殿山SNEC）

話題提供者：高橋香帆（明蓬館高等学校 品川・御殿山SNEC）

鈴木優里香（明蓬館高等学校 品川・御殿山SNEC）

根津優美香（明蓬館高等学校 東京・国立SNEC）

福本みなみ（明蓬館高等学校 岐阜SNEC）

指定討論者：新免玲（横浜市立大学）

杉山崇（神奈川大学）

会議室IV

オンライン配信：zoom4、時間：14：15～15：45

---

広域通信制高校へ進学を希望する生徒数は年々増加傾向にある。一方で通信制高校に在籍する生徒の実態についても注目が集まってきている。「令和5年度学校基本調査（文部科学省、2023）」によると1,065,592人の高校進学者の内、55,867人の生徒が通信制高校に進学しており、昨年度よりも約14.6%増加している。「定時制・通信制高等学校における教育の質の確保のための調査研究」報告書（平成29年度文部科学省委託事業、2018）」によると生徒数は広域通信制高校の在籍生徒のうち、約66.7%は不登校等を経験しており、心療内科等に通院歴のある生徒が約4.8%もいることがわかっている。「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン（文部科学省、2023）」の中でも通信制高校の中に養護教諭、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置したきめ細やかな生徒の支援の充実やキャリア支援を得意とする教職員やキャリアカウンセラーを配置し、生徒の社会的・職業的自立に向けた支援をすることの重要性が示されている。

広域通信制高校として2009年より設立された川崎特区明蓬館高等学校では、理事長の日野公三氏により「不登校や発達障害等のスペシャルニーズを持つ生徒たちが学びやすいユニバーサルデザインの学校」として福岡県田川郡川崎町に本校を設置（学校本部：東京都品川区）、2013年には心理職を常駐させるSNEC（すねっく：Special Needs Education Center）を設立し、生徒一人ひとりの実態に合わせた「支援と伴走」の実践を多職種が連携を図りながら実践をしている。特に、高校進学前まで学校や周辺機関とのつながりが希薄な生徒へのキャリア支援は大きな課題として捉えており、学校全体でオンライン環境の活用も含めて取り組んでいる。

本企画では、これからの学校教育現場における生徒の社会的・職業的自立に向けた支援に欠かせない生徒のキャリア支援の在り方についての研究への試みを議論することを目的とする。話題提供者は当該の広域通信制高校に在籍し、SNECの中で進学を目指す生徒への支援に携わっている教員と公認心理師である。日々の教育現場における生徒へのキャリア支援の実践報告をもとにキャリア支援の有効性を検討し、これからの通信制高校におけるオンライン環境を活用したキャリア支援の在り方について提言していく。

---

## 研究発表1

専門家庭教師による訪問支援における3つのモードの使い分け

発表者：菊谷 翔（開業家庭教師）

座 長：巢黒 慎太郎（神戸女子大学）

会議室Ⅰ

オンライン配信：zoom2、時間：12：30～14：00

---

## 研究発表2

本邦の心理臨床におけるSDM（Shared decision-making）の可能性と展望

発表者：角 隆司（関西大学心理臨床センター）

座 長：巢黒 慎太郎（神戸女子大学）

会議室Ⅰ

オンライン配信：zoom2、時間：12：30～14：00

---

## 研究発表3

長期に亘って継続された面接の終結

－社会適応の困難を抱えた30代男性とその両親の事例

発表者：菅溜夏（横浜市こども青少年局青少年相談センター）

座 長：安藤智子（筑波大学）

会議室Ⅲ

オンライン配信：zoom3、時間：14：15～15：45

---

## 研究発表4

心理療法におけるポジティブ感情の相互的感情調節プロセスモデルの  
構築と実証的検討

発表者：渡邊小百合・福島哲夫（大妻女子大学）

座 長：安藤智子（筑波大学）

会議室Ⅲ

オンライン配信：zoom3、時間：14：15～15：45

---

## 公開スーパーヴィジョン

司 会 吉岡千波（北野病院）  
スーパーヴァイザー 東 豊（龍谷大学）  
スーパーヴァイザー 福島哲夫（大妻女子大学）  
事例発表者 坂野由美子（Therapy Room こころん）

国際交流ホール I・II

オンライン配信：zoom1公開S V、時間：14：15～15：45

---

公開スーパーヴィジョンは、実際の事例を通して心理療法統合の生きた理解を深めることを目的として、第1回学術大会から当学会の重要なプログラムとなっている。

今回は、立場が異なる2名の卓越した実践家をスーパーヴァイザーとしてお迎えした。東豊氏は、システムズ・アプローチの名セラピストとして知られている。福島哲夫氏は、感情促進的な心理療法の名手であり、多様な心理療法技法を取り入れた柔軟な統合的実践で知られている。

1つの事例を、異なる視点を行き来しながら見ていくことで、より立体的に事例を理解するとともに、統合的な心理療法の実践についての理解も深めていきたい。

---

## 大会企画シンポジウム

### 「治療的变化を創り出すクライアントの力」

司会者：加藤敬（にしじまファミリークリニック）

企画者：杉原保史（京都大学）

話題提供者：茅野綾子（国立がん研究センター）

飯島誠（川崎市役所総務企画局人事部労務厚生課）

浅野みどり（東亜大学学生相談室）

指定討論者：岩壁茂（立命館大学）

国際交流ホール I・II

オンライン配信：zoom | 大会企画シンポ、時間：16:00~18:00

---

「心理療法」という言葉は、一般に、セラピストが施行する専門的な治療という意味で捉えられることが多いだろう。多くの人が、心理療法を施行する主体はセラピストであると、そしてクライアントはその受身の対象であると想定している。ここでは、セラピストは訓練された専門家として、専門知識に基づいてセラピーを導いており、セラピストのそうした専門的な知識、技能にこそ治療の力が宿っていると捉えられている。

しかし、セラピーの現実には、それほど単純にこの見方に収まるものではない。セラピストはいつも専門的な知見によって力強くセラピーを導いているとは限らない。セラピストが明確な方針を立てられないでいるうちに、クライアント自身がセラピーを主導することもある。クライアントがセラピストにセラピーのやり方をリクエストし、自らセラピーの方針を決めていくこともある。さらには、クライアント自身が、自らを治療するための技法を自力で生み出すことさえある。

そもそも、さまざまなセラピーの黎明期を振り返ってみると、創造的なクライアントがセラピーの開発に大きく寄与した例や、創始者自身が深刻な苦悩を抱える当事者としての過去を持ち、その経験をもとに新しいセラピーが生み出された例もある。

こうしたことは、心理療法統合にどのような光を投げかけるであろうか。われわれセラピストは心理療法統合をどうしてもセラピスト側の視点から考えがちだが、クライアント側から心理療法統合を見たとき、どのような風景が見えてくるだろうか。

本シンポジウムでは、さまざまな臨床現場で活躍している会員に、治療的变化が生じる上でクライアント自身が積極的に寄与したと思われるエピソードを提示していただく。そうした臨床素材をもとに、治療的变化を創り出すクライアントの力を、心理療法統合にどう活かし、どう取り入れるかについて議論してみたい。

---

## ワークショップ1

### 心理療法における社会正義アプローチ：心理療法統合を見据えて

講師 和田香織（カルガリー大学）

---

#### 【講師プロフィール】

カルガリー大学教育学部カウセリング心理学科 Associate Professor / Director of Training。マギル大学教育学部カウセリング心理学科で博士号を取得。カナダ心理学会「心理学における人権と社会正義委員会」メンバー。研究分野は死生学、多様性と社会正義、フェミニズム、心理臨床教育など。

#### 【講師からのメッセージ】

皆さんの中には、「社会正義なんて心理療法と関係があるの？」と疑問に思う方がいらっしゃるかもしれません。また、「〇〇に政治を持ち込むな」という言説が流布するなか、心理療法に社会や正義という概念を取り入れることに抵抗感を持つ方もいるでしょう。しかし、心理療法における社会正義アプローチは着実な発展を遂げ、近年では第五勢力とも言われるようになりました。このワークショップでは、社会正義アプローチが何であるか、なぜそのような視点が必要なのかという基本事項を踏まえ、社会正義アプローチと心理療法について考察します。特に、社会的アプローチの視点から考える共通要因や治療同盟に焦点を当て、多様な理論と実践に社会アプローチをどのように統合できるかについて、詳しく解説します。

---

## ワークショップ2

### オープンダイアログ

### ～オープンダイアログから学び、考える心理療法の統合～

講師 浅井伸彦（一般社団法人国際心理支援協会）

---

#### 【講師プロフィール】

一般社団法人国際心理支援協会 代表理事。法人内カウンセリングオフィスである「MEDI 心理カウンセリング東京/大阪」、南浦和つながりクリニックで公認心理師・臨床心理士として勤務。アジアで初のオープンダイアログの公式国際トレーナー。その他、IPSA 心理学大学院予備校の代表及び講師でもある。

専門は家族療法から始まりオープンダイアログと EMDR 等のトラウマケア。

#### 【講師からのメッセージ】

オープンダイアログという名前がつけられたのは、1984年8月27日です。つまり、今からちょうど40年前にオープンダイアログが生まれました。

本ワークショップでは、オープンダイアログについてご存知ない方も、ある程度書籍などで学ばれた方でもわかるような内容とし、日本心理療法統合学会のテーマとして「心理療法の統合」という観点から、オープンダイアログを捉えてみようという試みをしてみました。

最初の方は、オープンダイアログの入門的なお話をしています。このワークショップがオープンダイアログへの興味だけではなく、心理療法統合の視点を少しでも豊かにする貢献となれることを願っています。

---

## ワークショップ3

### アタッチメント基盤の感情焦点化療法 (Emotionally Focused Therapy: EFT) のカップルへの介入アプローチのご紹介

講師 高井美帆 (Sky カウンセリング & コンサルテーション 東京)

---

#### 【講師プロフィール】

米国ワシントン州認定臨床心理士(LMHC)、米国カウンセリング協会認定セラピスト (NCC)、公認心理士、及び国際 EFT センター(ICEEFT)の EFT 認定セラピストです。在米中は米国シアトル地区の地域精神保健施設や、大学に併設された施設にて地域の方々を対象に心理面談を行っておりました。現在は東京の学芸大学駅近辺の私設カウンセリングオフィスで、個人、カップル、成人の親子を対象に心理面談を行わせていただいております。

#### 【講師からのメッセージ】

スー ジョンソン博士のアタッチメント基盤の感情焦点化療法 (Emotionally Focused Therapy: EFT) の、カップルへのアプローチの概略をご紹介します。この手法は、大人の愛、アタッチメント等に関する実証研究により、カップルカウンセリングの効果が検証された、様々な国と地域で広く使用されている手法です。スーはアタッチメントの観点から、大切な関係性の中で相手と繋がれない時に感じる痛みが強くなるのは、パートナーが大切であればある程、人として当然のことだろうと言っています。EFT は“体験的”アプローチです。その基本的な部分を EFT を学ぶ立場にいる一臨床家目線でご紹介させていただきます。

---

日本心理療法統合学会  
第4回学術大会 運営委員

大会長 杉原保史  
事務局長 宮田智基  
事務局員 月村裕子  
          長村明子  
委員 東齊彰  
          岩壁茂  
          加藤敬  
          巢黒慎太郎  
          吉岡千波

理事

東齊彰(副理事長)  
岩壁茂  
加藤敬  
沢宮容子  
三瓶真理子  
杉原保史(副理事長)  
杉山崇  
巢黒慎太郎  
野末武義  
長谷川明弘  
福島哲夫(理事長)  
山蔦圭輔(事務局長)  
吉岡千波

監事

安藤智子  
井上直子